

神緑会ニュースレター

第4巻 第4号

発行日 2013年3月5日



附属病院第1病棟
(大倉山公園より)



医学部会館
(1・2階保育所 3階シスメックスホール)



研究棟B全面改修後
(旧基礎北棟)



共同研究館・寄付建物
(保育所プレハブ撤去後)

目次	ページ
平成24年度臨時社員総会並びに平成25年新春学術講演会	2
学術講演会 講演-I 「緩和医療と漢方」 乾 明夫	5
学術講演会 講演-II がん幹細胞を標的とした新たながん治療戦略 佐谷 秀行	6
京都大学iPS細胞研究所 (CiRA) 便り iPS細胞技術の特許について	12
第7回ホームカミングデイが開催されました 匂坂 敏朗	14
兵庫県副知事及び厚生労働省関係者による講演会	16
神戸大学医学部附属病院低侵襲総合診療棟について	18
神緑会館の工事と陳列棚の全面入れ替え	22
平成24年度海外派遣報告書 東亜大学校 (韓国、釜山) 実習報告 金本 義明	24
平成24年物故会員	26
佐々木宗一郎先生を偲ぶ 鶴 圭一郎	27
一般社団法人神緑会入会金並びに年会費納入制度に関する説明 —混乱の背景の解説や経過確認を中心に—	29
キャリアカフェ 2012 子育てドクターランチミーティング 第1回 “ママドクカフェ” を開催して 錦織千佳子	31
「ニコニコ会」の発足とその第1回クラス会開催	32

平成24年度臨時社員総会 並びに 平成25年新春学術講演会

日時：平成25年1月19日（土）
会場：シスメックスホール、神緑会館

◆ 会長挨拶（開会に際して）



本日はご多忙中にもかかわらず、ご出席いただきまして大変有り難うございます。また、本会の開催に際して各支部などのチケットの販売などについてのご協力にも感謝致します。

昨年の10月8日には、山中伸弥京都大学iPS細胞研究所長のノーベル賞受賞の報に接しました。この上ない喜びであり、横断幕や看板を学内に掲示しました。12月10日の受賞式に間に合うようにとニュースレター特集号をお手元にお届け致しました。

平成23年4月に一般社団法人へ移行したのを契機に、今まで以上に神緑会活動の活性化に取り組んでおります。

第1に運営体制の強化です。委任状が無効となるのを受けて、理事の人数を20名から15名に減らしましたがクラス代表評議員の2名体制としました。2～5年毎のクラス会の開催と、その為のクラス員の動向の把握に努めていただく事をお願いしています。第2に財政基盤の強化です。一般社団法人移行に際し、基本財産の公益目的支出が神緑会事業として決められています。しかしながら、同額が記念事業用の預金として残すように運営します。未入会者が600名弱おられますし、年会費の納入率も問題があります。第3に神戸大学支援です。5月に創立110周年の式典がありました。医学部は明治15年の神戸医学校を起点とすると創立130周年となります。学生の海外派遣の支援や臨床配属実習を開始する学生に白衣を贈呈する白衣式を後援会に変わりました神緑会が支援する予定です。

今年は新しい定款に基づく選挙の年です。また、夢事業としては山中二世育成事業などに取り組む事があります。本日は、総会から学術講演会、懇親会まで長時間ですが、運営にご協力いただきますようお願いいたします。なお、神緑会館陳列棚の場所を移動し、ノーベル賞受賞者・候補者の資料を含め、入れ替えました。ご覧いただくようお願いいたします。

平成25年度 一般社団法人神緑会 事業計画書

- 1) 地域における疾病並びに医療等に関する研究調査(定款第7条第1号該当事業)(予算総額 1,600,000円)
- (1) 糖尿病発症におけるインクレチン効果の疫学的研究 予算 400,000円
研究調査班代表者: 愛仁会千船病院代謝内分泌内科部長 田守 義和
研究協力者: 村上 淳(愛仁会総合健康センター)、林 朝茂(大阪市立大学都市環境医学)
- (2) 周産期予後不良症例の背景解析についての調査研究 予算 400,000円
研究調査班代表者: 神戸大学大学院医学研究科 総合臨床教育・育成学分野特命教授 山崎 峰夫
研究協力者: 大橋 正伸(若宮病院)、房 正規(加古川西市民病院)、
船越 徹(兵庫県立こども病院)、左右田裕生(済生会兵庫県病院)、
西島 光浩(兵庫県立淡路病院)
- (3) 大災害時死亡者の家族に対する支援システムの構築 予算 400,000円
研究調査班代表者: 兵庫医科大学救命救急センター副センター長 久保山一敏
研究協力者: 小澤 修一(兵庫県災害医療センター)、小谷 穰治(兵庫医科大学)、
中尾 博之(東京大学医学部附属病院)、中山 伸一(兵庫県災害医療センター)、
村上 典子(神戸赤十字病院)、吉永 和正(兵庫医科大学)
- (4) 我国および周辺アジア諸国におけるヒトバベシア症発生状況調査と地域特有バベシア原虫の性状の比較解析 予算 400,000円
研究調査班代表者: 兵庫医療大学薬学部微生物学分野 斎藤 あつ子
研究協力機関: 神戸大学大学院医学研究科微生物学分野、兵庫県立淡路病院、洲本伊月病院、ほか
- 2) 学術講演会等の開催(定款第7条第2号該当事業) (予算総額 2,500,000円)
- 3) 教育研究・学術交流援助(定款第7条第3号該当事業) (予算総額 2,300,000円)
- (1) 本会学術委員会の答申に基づき援助対象の医学に関する学術交流基準又は教育・研究活動基準に合致するものの選考を行い、該当者に対し、援助を行う。 予算 1,700,000円
- (2) 本会学術委員会の答申に基づき援助対象の海外における学会発表基準に合致するものの選考を行い、該当者に対し、原則として1件につき100,000円を限度として援助を行う。 予算 300,000円
- (3) 本会学術委員会の答申に基づき、援助対象となる女性の研究者の中から、別に定める田中千賀子学術奨励賞規定により1名の選考を行い、該当者に対して300,000円を授与する。 予算 300,000円
- 4) 学術誌の発行(定款第7条第4号該当事業) (予算総額 2,700,000円)
内容について学術誌編集委員会で検討し、充実したものにする。
- 5) 医学部教員の海外学習に対する援助(定款第7条第5号該当事業) (予算総額 500,000円)
- 6) 医学部学生の海外交流学习に対する援助(定款第7条第5号該当事業) (予算総額 2,000,000円)

平成25年度事業費総額 合計11,600,000円

教授就任並びに栄誉者一覧

教授就任

神戸大学大学院医学研究科 外科系講座形成外科学分野 教授	寺師 浩人 (特)
神戸大学大学院医学研究科 外科学講座食道胃腸外科学分野 教授	掛地 吉弘 (特)
神戸大学大学院医学研究科 外科学講座呼吸器外科学分野 教授	眞庭 謙昌 (02)
神戸大学大学院医学研究科 内科系講座精神医学分野 教授	曾良 一郎 (特)
神戸大学医学部附属病院 血管内治療センター 特命教授	杉本 幸司 (63)
神戸大学大学院医学研究科 腎泌尿器学分野泌尿器先端医療開発学部門 特命教授	田中 一志 (02)
神戸大学大学院医学研究科 内科系講座 放射線医学分野機能・画像診断学部門 特命教授	大野 良治 (05)
神戸大学医学部附属病院 内科学領域放射線腫瘍科 特命教授	佐々木良平 (05)
神戸大学医学部附属病院 リハビリテーション部 特命教授	酒井 良忠 (08)
神戸大学大学院医学研究科 消化器内科学分野消化器先端医療開発部門 特命教授	久津見 弘 (特)
九州大学病院別府病院 内科 特任教授	塩澤 俊一 (50)
旭川医科大学外科学講座消化器病態外科学 教授	古川 博之 (55)
島根大学医学部放射線医学講座 放射線腫瘍学 教授	猪俣 泰典 (55)
東京女子医科大学病院脳神経センター 脳神経外科 教授	平 孝臣 (57)
獨協医科大学 放射線治療部門 教授	村上 昌雄 (57)
東京大学公共政策大学院 特任教授	鎌江伊三夫 (60)
近畿大学医学部附属病院 早期認知症センター 教授	石井 一成 (61)
兵庫医療大学リハビリテーション学部 理学療法学科 教授、学部長	藤岡 宏幸 (63)
国際医療福祉大学 東京ボイスセンター 教授	渡邊 雄介 (02)
愛媛大学大学院医学系研究科 法医学 教授	浅野 水辺 (06)

病院長

公立浜坂病院 院長	尾原 秀史 (44)
国立病院機構兵庫青野原病院 院長	栗栖 茂 (49)
公立宍粟総合病院 院長	山崎 良定 (49)
済生会兵庫県病院 院長	山本 隆久 (52)

栄誉者

瑞宝中綬章	美崎 教正 (32)
瑞宝小綬章	岡本 良三 (35)
瑞宝小綬章	大植 正俊 (37)
兵庫県健康功労賞	小野寺芳伸 (48)
兵庫県県政功労賞	天野 和彦 (54)
兵庫県健康功労賞	花田 進 (55)
ノーベル医学・生理学賞、文化勲章	山中 伸弥 (62)
衆議院議員	伊東 信久 (07)

学術講演会 講演Ⅰ



講演中の乾 明夫先生

「緩和医療と漢方」

鹿児島大学大学院 心身内科学
乾 明夫

近年、漢方の再評価がなされ、漢方研究の進歩とともに、エビデンスに基づく漢方の使い方が重視され、漢方教育も活発に行われるようになってきた。この理由として、近代医学の著しい進歩にもかかわらず、その手の届きにくい領域や疾患の存在が挙げられる。がんの緩和医療のように、漢方薬を応用することにより、抗癌剤の副作用や食欲不振、痛み、抑うつなどを軽減し、患者のQOLを向上させる効果が得られる。しかし、漢方薬の作用機構の解明はようやくその端緒についたばかりであり、エビデンスのレベルも低いものが多く、この現状を打破してゆく必要がある。

本講演では、がんを中心とした緩和医療への漢方の応用と、そのエビデンスを述べる。悪液質に対する六君子湯、不安・抑うつに対する柴胡加竜骨牡蛎湯・香蘇散、せん妄に対する抑肝散、消化管運動機能低下・便秘に対する大建中湯など、その作用機序と臨床効果が明らかとなりつつある。

乾 明夫 (いぬい・あきお) プロフィール

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科社会・行動医学講座心身内科学分野 教授
(兼) 鹿児島大学病院呼吸器・ストレスケアセンター心身医療科 教授

1978年3月31日 神戸大学医学部卒業
2000年1月1日 神戸大学医学部助教授に任用 (～平成13.3.31)
2005年1月1日 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科社会・行動医学講座行動医学分野 (現心身内科学分野) 教授 及び鹿児島大学病院 呼吸器・ストレスケアセンター心身医療科診療科長に任用
2007年4月1日 鹿児島大学病院 病院長補佐 (診療・研究担当)に任用 (～平成21.3.31)
2008年5月6日 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科国際統合生命科学研究センター長に任用
2008年8月1日 鹿児島大学病院呼吸器・ストレスケアセンター長に任用
2009年4月1日 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科健康科学専攻長に任用
2012年7月1日 鹿児島大学病院 漢方診療センター長に任用 現在に至る



切田 学 (乾先生講演司会)



質問者 松尾 雅文

◆ 学術講演会 講演一Ⅱ



講演中の佐谷 秀行先生

がん幹細胞を標的とした 新たながん治療戦略

慶應義塾大学医学部先端医科学研究所
遺伝子制御研究部門

佐 谷 秀 行

がん組織は、一様の性質を持つがん細胞によって構成されると考えられていましたが、「がん幹細胞」と呼ばれる大本になる少数の細胞と、その細胞から作られる大多数の下流の細胞、つまり女王蜂と働き蜂に相当する階層性のある細胞で構成されていることが分かってきました。このがん幹細胞こそが、各種治療に対して抵抗性を示し、再発や転移の原因になる細胞であると考えられています。私達の研究室では、がん幹細胞の性質を維持するために働いている分子機構を明らかにし、それを標的とした薬剤開発プロジェクトを進めています。講演ではがん幹細胞の概念と、それに基づいて変化すると考えられる今後のがん治療戦略についてお話ししたいと思います。

佐谷 秀行 (さや・ひでゆき) プロフィール

慶應義塾大学医学部 先端医科学研究所 遺伝子制御研究部門 教授

1983年より神戸大学大学院医学研究科（博士課程）入学

1987年同修了（医学博士取得）

2007年より現職

研究テーマ：がん幹細胞の性状解析と、再発・転移における役割



的崎 尚 (佐谷先生講演司会)



質問者 益子 秀久

平成25(2013)年度一般社団法人神緑会助成事業募集について

一般社団法人神緑会は定款第2章（目的及び事業）第7条第3号「大学等教育研究機関における医学に関する教育、研究活動及び学術交流に対する援助」に基づき、下記の要領にて平成25（2013）年度助成事業を会員から募集いたしますので奮ってご応募下さい。

記

1. 応募資格

一般社団法人神緑会定款第10条第1項に該当する会員。但し、当該年度に一般社団法人神緑会事業の責任者として参画している者は除く。

2. 募集対象

- (1) 医学の教育・研究及び学術交流の振興に寄与する事業で本助成に適合するもの。ただし、文部科研等他の助成研究に応募できる者は、出来る限りそちらへの応募が望ましい。
- (2) 海外における学会発表で本助成に適合するもの3件以内。
ただし、1、2とも原則として若手研究者の応募を奨励する。また、原則として2年連続の助成はしない。

3. 助成期間

原則として当該年度内とする。

4. 助成金

助成金の総額は「公益目的支出計画」に定められた当該年度予算の範囲内とし、応募1件につき2. (2) は10万円を限度とする。

5. 助成を受けた者は、次の義務が課せられる。

- (イ) 助成の成果等の報告書を一般社団法人神緑会学術誌に掲載すること。
 - (ロ) 助成額に対応する収支報告書を、当該研究完了後に本会宛提出すること。ただし、「奨学寄附金」として交付されたものは除く。
 - (ハ) 本会の学術講演会、研究セミナー等でその成果を発表すること。
- (ニ) 助成の成果を論文に発表し、その際には本会の助成を受けた旨を付記すること。

6. 応募方法

応募者は、助成金申請書記入手引に従い所定の申請用紙に必要事項を記入し提出すること。（申請用紙は、神緑会ホームページまたは、事務局にて入手してください。）

7. 応募期間

平成24年6月23日から平成25年3月31日までとする。

8. 選考方法

本会学術委員会で選考し、同理事会で決定する。

平成25年度田中千賀子学術奨励賞の募集について

田中千賀子教授退官記念事業会から、本会女性会員で医学研究の進歩に寄与する顕著な業績を残した者に対して、奨励賞を授与するため「神緑会女性研究者奨励賞基金」が寄せられました。これを有効に活用するため、下記要領で募集を行います。

記

一般社団法人神緑会は定款第2章（目的及び事業）第7条第3号に基づき、以下の規定に従い平成25年度助成事業として募集いたしますので奮ってご応募下さい。

☆ 応募者は、所定の申請用紙に必要事項を記入し、業績論文を添えて提出して下さい。

☆ 申請用紙は一般社団法人神緑会ホームページ又は事務局にて入手して下さい。

☆ 応募の締め切りは、平成25年3月31日とします。

一般社団法人神緑会 田中千賀子学術奨励賞規定

（趣 旨）

第1条 本規定は、一般社団法人神緑会（以下「本会」という）定款第7条に基づき授与する田中千賀子学術奨励賞（以下「田中賞」という）について定める。

（対 象）

第2条 田中賞は、本会の女性会員で医学研究の進歩に寄与する顕著な成果を発表し、将来指導者としての発展が期待される研究者に授与される。

（資 格）

第3条 田中賞の受賞者は、本会会員歴および研究歴が5年以上のものとする。

（選 考）

第4条 田中賞の選考は、別に定める「田中賞受賞者選考規定」による。

（授 与）

第5条 田中賞は、原則として年1件とし、賞状および副賞（30万円）を贈呈する。

（受 賞 者）

第6条 受賞者は、原則として、受賞次年度の総会において受賞業績に関する講演を行う。

付 則 本規定は平成23年4月1日より施行する。

田中賞受賞者選考規定

（趣 旨）

第1条 本規定は、田中賞受賞者を選考する手続きを定めるものである。

（選考委員会）

第2条 田中賞受賞者の選考は、本会学術委員会において行う。

（募 集）

第3条 田中賞の候補者募集は、本会理事会の議を経て、本会学術誌等の広報により行う。

（応 募）

第4条 応募者は、所定の申請書および論文リストと主な論文3篇の別刷を本会に提出する。

2 本会会員は、受賞候補者を本会に推薦することができる。

3 応募の締め切りは3月31日とする。

（決 定）

第5条 学術委員会は、定時総会までに選考の経過ならびに結果について理事会に付議し、田中賞受賞者を決定する。

付 則 本規定は平成23年4月1日より施行する。

役員選挙(Ⅲ)

去る平成25年1月19日開催の臨時社員総会において、次期役員選挙のための選挙管理委員会の設置が下記のとおり承認されました。(現役員は平成25年度定時社員総会の終結時をもって任期満了となります。)

選挙管理委員会は、運営規則並びに役員選挙細則の規定に基づき、役員選挙を主宰する機関として、選挙の告示、立候補者の被選挙人としての承認並びに社員総会への付議、選挙の投開票、当選者の確定などに付帯する選挙事務を行います。

これまでニュースレター第4巻2号、3号で周知してきましたとおり、一般社団法人に移行して初めての役員選挙となり、平成25年3月1日時点で資格喪失要件に該当していない正会員は役員選挙権・被選挙権を有し、平成25年度定時社員総会において選挙(投票)を行います。

なお、役員選挙告示の掲載や立候補の届出等を行えるインターネットを利用した「役員選挙システム」を導入する予定です。このことについては改めてご案内します。ネットの使えない会員には、文書で通知します。

また、役員選挙実施までのスケジュールを併せて掲載します。

選挙管理委員会

委員長	恵美裕一郎	正会員ア) 昭和43年卒
委員	前田 英一	正会員ア) 昭和61年卒
同	伊藤 光宏	正会員ア) 昭和62年卒
同	吉田 優	正会員ア) 平成4年卒
同	後藤 章暢	正会員イ) 昭和62年産業医科大学医学部卒、神戸大学大学院修了

(平成25年1月19日臨時総会において設置承認)

役員選挙スケジュール

平成25年

1月19日(土)	選挙管理委員会設置承認【平成24年度臨時社員総会】
2月16日(土)	【第1回選挙管理委員会】
3月16日(土)	【第2回選挙管理委員会】
3月31日(日)までに	(3/1時点で有資格の正会員に対して) 役員選挙告示(3/28) (立候補届等必要書類添付)
5月1日(水)～5月20日(月)	立候補届の受付
5月31日(金)まで	立候補の辞退の受付
6月1日(土)	立候補者の被選挙人としての承認【第3回選挙管理委員会】
6月8日(土)まで	(3/1時点で有資格の正会員に対して) 被選挙人名簿を通知
6月22日(土)	役員選挙実施【平成25年度定時社員総会】

平成24年度神緑会総会懇親会

シスメックスホールでの総会、教授就任・病院長・栄誉者紹介ならびに新春学術講演会が終了した後、いつものように神緑会館多目的ホールに場所を移して懇親会が開催されました。

懇親会も総会に引き続き中野康治先生（昭和52年卒）の司会で進行しました。まず、前田 盛会長が挨拶したあと、溝口史郎名誉会員に乾杯の音頭を取っていただきました。学術講演会演者の乾 明夫先生（昭和53年卒）、佐谷秀行先生（昭和56年卒）それぞれの同級生10数名ずつを含んだ計70数名の幅広い世代からの参加者を得ることができました。宴の半ばになり、学内・学外新任教授ならびに病院長就任者、栄誉者の方々にご挨拶をいただきました（写真参照）。なお、精神医学分野教授に平成25年4月1日ご就任予定の曾良一郎先生は、同分野教授の空席が長期間続いたため、いち早く会員にご紹介することを意図して、ご着任前ではありますが特にご参加いただいたものです。

参加者一同、同窓のつながりに想いを馳せながら楽しい歓談のひと時を過ごしていただいたものと思います。



渡邊 雄介



眞庭 謙昌



佐々木 良平



大野 良治



浅野 水辺



酒井 良忠



美崎 教正



尾原 秀史



栗栖 茂



山崎 良定



塩澤 俊一



猪俣 泰典



鎌江 伊三夫



杉本 幸司



藤岡 宏幸



曾良 一郎
(H25.4.1就任予定)



懇親会 満口史郎名誉教授による乾杯



懇親会

京都大学iPS細胞研究所(CiRA)便り

平素より神緑会会員の方々から、iPS細胞研究基金に多大なご支援をいただいております。深く感謝申し上げます。また、山中伸弥所長が昨年ノーベル生理学・医学賞を受賞したおりに、数々の祝福のメッセージを賜り、心から御礼申し上げます。さて、今号では、CiRA（サイラ）の特許事情についてご報告いたします。

iPS細胞技術の特許について

■ CiRA知財チーム

京都大学のiPS細胞技術関連の知的財産権（特許権）の取得については、CiRA知財契約管理室が中心的な役割を果たしています。

2007年11月にヒトiPS細胞作製成功を発表した直後に、山中伸弥教授の強い希望で、研究所の前身であるiPS細胞研究センターに知財担当者として高須直子知財契約管理室長が着任したのは、2008年6月のことでした。それまでは、京都大学全体の知財を管理している産官学連携本部の知財部門が担当していましたが、山中教授は特許出願をスピーディに行い、重要な特許を国内外で取得するには、研究者の近くで研究内容を理解できる担当者が常駐することが必要と考えたのです。

このような考えを持つきっかけになったのは、山中教授が上席研究者を勤める米国のグラッドストーン研究所の研究支援体制の充実振りを目の当たりにしたからです。国際競争において、研究成果から十分な果実を得るには、研究者は論文や研究活動に集中すべきであり、特許や契約などの高度に専門的な知識を要する分野は、その専門家に任せるべきであることを実感したとのことでした。

生物学修士号を取得し、大手製薬企業の知財部署で約20年間の実務経験を持つ高須の着任により、担当者が研究データを見ながら迅速に特許出願を行える体制が整いました。その後、企業で特許関連業務を経験した職員を採用し、現在、CiRA知財チームは4名で構成されています。彼らは、CiRAの研究部門毎に行われる研究進捗報告会に参加しながら、新しい技術を見つけ次第特許出願を行っています。

また、京大が深く関与し、2008年6月に設立されたiPSアカデミアジャパン株式会社が、京大が保有

するiPS細胞技術関連の特許ライセンス許諾および管理を行っています。

■ 世界で特許取得

2008年9月に、京都大学がiPS細胞の基本技術特許第1号を日本で取得しました。細胞の初期化を誘導する4つの遺伝子を体細胞に導入しiPS細胞を作製する方法の特許でした。翌年には、癌遺伝子であるc-Mycを除く3つの遺伝子を用いてiPS細胞を作製する方法と、皮膚などの体細胞からiPS細胞を経て所望する組織の細胞へと誘導する方法（つまり、体細胞から別の体細胞を作製する方法）についても日本で特許権を取得できました。

さらに、2011年5月には、欧州で1件、同年8月には米国で1件の特許を取得しました。有力な研究所や製薬企業がひしめく欧米で基本技術特許を確保したことにより、海外でも企業研究者が安心してiPS細胞を用いた研究開発を進める環境作りに貢献しました。2013年2月13日現在で、京都大学保有のiPS細胞関連特許は13ページの図表のような26カ国と1地域で成立しています。

iPS細胞に関わる特許で一時話題になったのが、いわゆる「バイエル特許」です。「バイエル特許」とは、バイエル薬品で行われていたiPS細胞に関する研究成果から生じた特許を指します。独バイエル社は、2008年にこの特許を米国のバイオベンチャーiPierian社（正確には前身のiZumi Bio社）に譲渡しました。そして、2010年2月に、バイエル特許1件が英国で成立したのです。当時、京都大学とiPierian社は、特許取得についてはライバル関係にありました。2010年12月上旬には、とうとう3つの遺伝子を用いたiPS細胞の作製方法に関して、米国においてどちらが本当の特許権者であるのかを米国特許庁で争うことになるかもしれないという

危機に見舞われました。しかし、iPierian社から「バエイル特許」の譲渡の申し出があり、山中教授自らが陣頭に立ち両者の担当者が年末年始返上で交渉をまとめあげ、翌2011年1月下旬に米国だけでなく世界中の約30件分の特許（出願含む）が京大に無事に譲渡されました。このように特許の争いが回避され、京都大学に権利が一本化されました。

■ 特許戦略

iPS細胞を作製するためには、遺伝子の導入方法や使用する遺伝子の種類など様々な技術が必要になります。そこで、CiRAは、できるだけ多くの重要なiPS細胞関連の特許を全世界で取得することを目指しています。これは、iPS細胞技術を安価な公共技術（オープンソース）として提供し、できる限り多くの企業がiPS細胞を利用した医薬品等の研究開発に取り組むことができるように促すためです。大学などの研究機関が研究の道具としてiPS細胞を使用しているだけでは、多くの方にiPS細胞研究の成果を享受してもらうには時間がかかってしまいます。そこで、広く産業として開発に取り組まれることが必要であると考えております。言い換えると、特定の企業が重要な特許を取得し、高額な特許許諾料金を設定したり、その技術を独占的に利用することによって、研究開発が進まなくなるなどの弊害を防ごうとしているのです。

しかし一方で、医薬品を上市させるには初期投資費用が莫大にかかる現状において、開発した治療薬を多数の企業が同時に販売できることになれば、利益が確保されないため、産業として開発に参入することが難しいことも確かであります。そこで、特許により利益の確保を約束して企業の参入を促すことも必要なことと考えております。

iPS細胞はその万能さ故に様々な使用方法が考えられますが、この使用方法に合わせてバランスよく

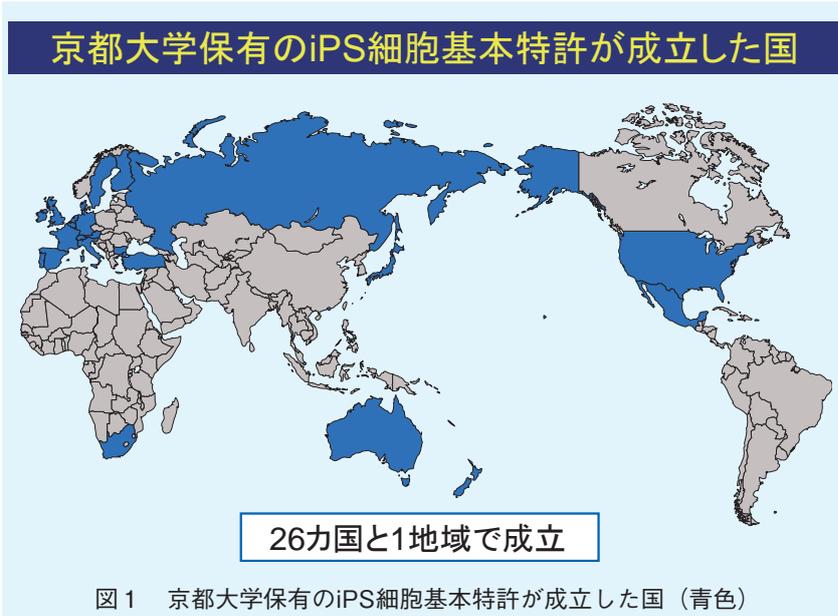


表1 京都大学が保有している特許の国／地域別成立件数

米国…………… 6件	ニュージーランド…………… 2件
日本…………… 4件	ユーラシア…………… 1件
シンガポール…………… 3件	(ロシアに移行済み)
南アフリカ…………… 2件	イスラエル…………… 1件
英国…………… 2件	メキシコ…………… 1件
欧州…………… 1件	香港…………… 1件
(17カ国に移行済み)	オーストラリア…………… 1件

上記の成立特許のうち、iPierian社から譲渡を受けた特許は、米国2件、英国2件、シンガポール1件、南アフリカ1件、ニュージーランド1件です。それ以外は、山中教授のグループが開発したiPS細胞技術に基づく特許です。いずれも、iPS細胞作製技術や初期化因子等に関する基本技術の特許です。

* 数字はいずれも、2013年2月12日現在。

特許をコントロールして、iPS細胞技術の成果をより多くの方が享受できるように特許戦略を考えることもCiRAの使命の一つです。

これまで、国からも知財確保のための公的資金の配分を受け、iPS細胞技術関連の特許取得を順調に行ってまいりました。今後は、未だ特許取得に至っていない国（中国、韓国など）でも成立させることや、iPS細胞技術を用いた治療法や創薬の開発に必要な周辺特許の確保も目指した活動にも注力してまいります。また、将来、特許係争に巻き込まれる可能性もあります。そのような緊急時には、iPS細胞研究基金を活用せざるを得ないケースも考えられ、引き続きみなさまのご支援をお願い申し上げます。

※iPS細胞研究基金への寄附のお申し込みについては、30頁をご覧ください。

第7回ホームカミングデイが開催されました

膜動態学分野教授 匂坂敏朗（特別会員）

第7回神戸大学ホームカミングデイが10月27日（土）、神戸大学の全キャンパスで開催されました。ホームカミングデイは、卒業生を母校に招いて、大学の現状を見て頂くと共に教職員や学生と交流することにより、神戸大学と卒業生の間の絆を深める催しで、平成19年に始められました。

本年度は、昭和32年卒、昭和42年卒、昭和47年卒、昭和52年卒、昭和62年卒、平成9年卒、平成19年卒並びに平成23年卒の同窓生を招待し、午後3時より医学部医学科の学部企画を行いました。

医学部会館シスメックスホールで行った講演会では、3つの講演を通じて、学内の新しい動きを紹介し、今年度のノーベル生理学・医学賞を受賞した本学部卒業生の山中伸弥京都大学教授の話題にも触れました。

講演終了後、参加者全員で記念撮影を行い、引き続き午後6時から神緑会館多目的ホールで懇親会をしました。満員となった会場内で、卒業生と教職員、学生たちが歓談し、親睦をはかりました。

プログラム

◆講演会（医学部会館シスメックスホール）

* 医学部長挨拶 代理：堀田 博教授・副医学部長

* 執行部役員紹介

* 講演1 「神戸大学医学部附属病院総合臨床教育センターについて」

匂坂 敏朗 特命教授

* 講演2 「医学教育における最近の動き：医学教育認証制度と秋入学」

寺島 俊雄 教授・医学科長

* 講演3 「統合的膜生物学グローバルCOEプログラムの総括」

片岡 徹 教授

* 病院長挨拶 代理：藤澤 正人教授・副病院長

◆記念撮影（医学部会館シスメックスホール）

◆懇親会（神緑会館多目的ホール）

医学部長挨拶 代理：堀田 博教授・副医学部長

神緑会会長挨拶

前田 盛先生

乾杯のご発声

具 英成教授

学生自治会会長挨拶

市川 晋也君

大倉山祭実行委員長

水木 真平君



匂坂 敏朗教授・臨床教育センター長



寺島 俊雄教授・医学科長



片岡 徹教授



堀田 博教授・副医学部長、挨拶



神緑会前田 盛会長、挨拶



学生の出席者



藤澤 正人教授・副病院長



乾杯のご発声、具 英成教授・評議員



溝口 史郎名誉教授



講演会出席者による記念写真

兵庫県副知事及び厚生労働省関係者による講演会

日時：平成24年12月28日（金）15：00～17：00

場所：神緑会館多目的ホール

昨年末の御用納めの日、恒例の厚生労働省関係者による講演会が、今回は兵庫県金澤和夫副知事を特別にお招きして開催されました。

根木研究科長の挨拶のあと、第1部講演として、まず、前田光哉先生（H4卒）は牛海綿状脳症（BSE）に関し、リスク分析と関係省庁の役割、BSEとヒトのプリオン病との関係、食品健康影響評価の諮問内容、評価結果を得るために用いた主な知見、などについてお話をいただきました。次に、永田充生先生により人事院の組織と役割に関するご紹介、さらには人事院による公務員の心身の健康管理対策、安全管理対策、また、質の高い行政サービスを提供するための取り組み等についてお話しいただきました。最後に、山本光昭先生（S59卒）は独立行政法人福祉医療機構の概要についてご紹介いただき、その主な事業である医療貸付事業を詳細にお話し下さいました。

次に、第2部として、兵庫県金澤和夫副知事に兵庫県の医療行政についてご講演をいただきました。内容は、1）医療圏域と基準病床数、2）医師確保の取り組み、3）医療提供体制の整備、4）統合・再編とネットワーク化、5）関西国際戦略総合特区、というもので、それぞれのテーマについて、現状分析と課題、その解決策等について、県の医療行政を俯瞰する立場から分かりやすくお話しいただきました。中でも、神戸大学の地域枠推薦入学定員をH25年度から2名増の10名にしたことで、へき地勤務医師の増加に向けて神戸大学への期待が大きいこととともに、県養成医の将来を見据えた医師としてのキャリア形成を重視しなければならないと述べられたことが印象的でした。また、「関西が一体となったイノベーションの創出」というコンセプトで進められている国際戦略総合特区については、神戸地区における医療関係の事業を中心にご紹介いただき、神戸大学が兵庫県とともに先進的研究とその実用化に向けてより一層活発に取り組んで

プログラム

開会挨拶： 根木 昭 医学研究科長

第1部講演（15：05～15：55）

1. BSE対策の見直しについて
内閣府食品安全委員会事務局
評価課評価調整官 前田 光哉 先生
2. 人事院について
人事院職員福祉局職員福祉課
健康安全対策推進室長 永田 充生 先生
3. 独立行政法人福祉医療機構の概要について
独立行政法人福祉医療機構 審議役
山本 光昭 先生

第2部講演（16：00～17：00）

兵庫県の医療行政について

兵庫県副知事 金澤 和夫 先生

閉会挨拶： 杉村 和朗 医学部附属病院長

もらうとの期待を述べ、お話しを終えられました。

ご講演の終了後、杉村病院長が謝辞と閉会のご挨拶をされ、そのあと、神緑会館研修室で情報交換会を持ち、出席者間でさらに懇談を深めました。



根木 昭研究科長



前田 光哉内閣府評価調整官



永田 充生人事院健康安全室長



山本 光昭独法審議官



金澤 和夫県副知事



副知事講演に聞き入る参加者



杉村 和朗医学部附属病院長

神戸大学医学部附属病院低侵襲総合診療棟について

現在、附属病院では平成26年9月の竣工を目指して、低侵襲総合診療棟の建築が進められています。この事業は附属病院における外来、中央診療部門の機能強化のために重要な位置づけがなされておりますが、会員の先生方にその全体構想とともにご紹介させていただきます。



平成25年1月23日
神戸大学医学部附属病院

敷地概要・経年別建物配置図

◆ 敷地概要

敷地位置	神戸市中央区楠町7丁目5-1	日影規制	4時間、2.5時間 (建令第135条の12 敷地地盤レベル緩和) (建基法第56条の2 建築許可)
敷地面積	42,397.77㎡(医学研究科面積を除く)	その他	宅地造成工事規制区域、震災復興促進区域 神戸駅大倉山都市景観形成地域 埋蔵文化財包蔵地
敷地周囲の環境	東側 大倉山公園、楠寺(第2種住居地域) 西側 一般住宅(第1種住居地域) 南側 神戸大学大学院医学研究科、楠中学校(第2種住居地域) 北側 一般住宅(第1種住居地域)		
都市計画区域	都市計画区域内 市街化区域		
防火地域	準防火地域		
用途地域	第2種住居地域 容積率 300% 建蔽率 60%		
高度地区	第5種高度地区		

◆ 敷地状況



◆ 建設経緯(病院敷地の主な建物)

建築年	構造・階数	棟名称	面積(㎡)	整備経緯
S58	R5-1	中央診療棟・病棟	17,449	病院再開発事業による整備
S61	R6-1	外来診療棟	27,418	
H13	R11-1	病棟	40,921	PFI事業による整備
H16	S3	立体駐車場	7,403	

附属病院基盤強化の全体像

◆ はじめに

神戸大学医学部附属病院(以下「本院」という。)では、医師等の育成のための教育機関、新しい医療技術の研究・開発を行う研究機関、高度の医療を提供する地域の中核的医療機関として、重要な役割を果たしてきた。平成14年度に再開発事業による整備を終えたが、近年、高齢化の進展や疾病構造の変化、質の高い医療を求める国民の意識の変化等に伴い、本院における医療提供の在り方、我が国の医療を先導する臨床医学研究の在り方、医療現場で活躍する医師やコ・メディカルスタッフに対する教育・研修の在り方それぞれについて、国民の期待に応える充実や見直しが求められている。

このような状況を踏まえ、今後の本院の在り方について基本理念を醸成し合わせた上で**将来計画、施設整備計画、資金計画等を検討する**。基本理念を実現するためには、まず**財政基盤を確立**し、その次に**診療体制を確立**することが重要であり、本院では「がん診療拠点病院としてのがん診療機能の強化」及び「低侵襲等の先進医療の推進、女性に優しい治療空間の提供」を最重要課題として**低侵襲総合診療棟整備による基盤強化を図り、病院機能の向上と経営収支の向上を実現し、社会の期待に応えたい**。

◆ 基本理念

- ① 患者中心の医療の実践
- ② 人間性豊かな医療人の育成
- ③ 高度先進医療の開発と推進
- ④ 災害救急医療の拠点活動
- ⑤ 医療を通じての国際貢献

本院の基本理念の根幹は「安心・安全かつ高度な医療の提供」とそれを可能にする「教育・研究」である。その真髄は「優秀な人材」と「良好な職場環境」そのためには「診療体制の確立」と「財政基盤の確立」が不可欠

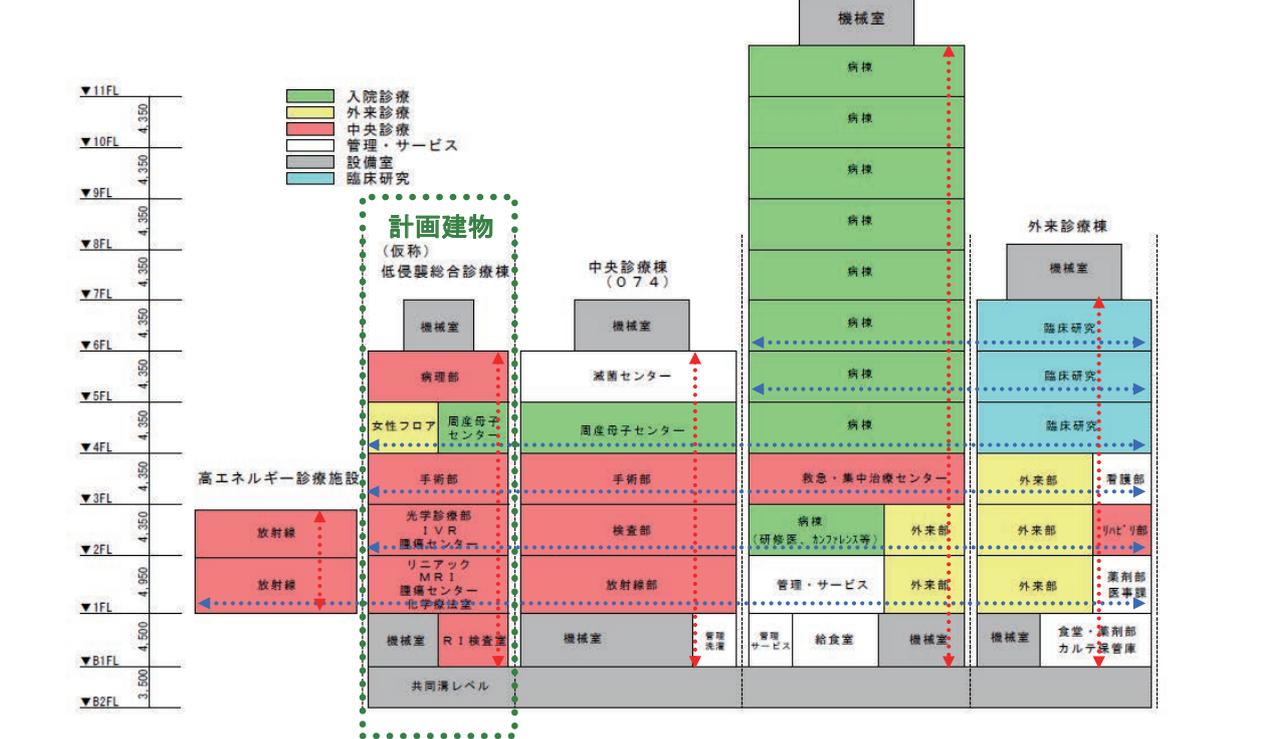
◆ 基盤強化の全体像

社会	医学研究科・附属病院				基盤強化の全体像
	取り組む状況・問題点	基本理念に基づく問題整理	解決策	解決策を実現するための構想	構想を実現するための整備
<p>経営改善努力2% /年(5年間)</p> <p>法人への移行時に、既存固定資産(設備)に係る引当金相当の資金措置が無し</p> <p>兵庫県がん対策推進計画に基づき連携</p> <p>医療行政の変化 → 入院包括制度の推進により外来への患者シフト</p> <p>臓器別診療による診療の細分化、新診療科の増設</p> <p>新臨床研修プログラム制度により大学病院の教養実習体制の変化 → 大学病院離れの進行、勤務医の地域偏重)</p> <p>高齢化対策 → 低侵襲治療での需要拡大(患者が診療法を選択する時代の到来)</p> <p>少子化対策 → 周産期医療現場の整備・充実の必要性</p> <p>急性期医療の機能強化</p>	<p>財政面</p> <ul style="list-style-type: none"> 運営費交付金減による新たな資金調達計画が必要 減価償却引当金相当の資金調達計画が必要 	<p>基本理念に基づく問題整理</p> <ul style="list-style-type: none"> 運営実態の的確な把握 資源配分を的確に見直し、機動的に決定・実行 組織・意識改革 病院を取り巻く環境の徹底分析 財政基盤確立のための経営戦略 	<p>解決策</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後の患者数の動向等も見据えた人材投資、設備投資に係る新たな資金調達スキーム 	<p>解決策を実現するための構想</p> <ul style="list-style-type: none"> 低侵襲治療の充実 がん診療機能の強化 先端医療の推進 計画的な設備機器の更新 医師・コメディカルの育成・確保 女性に優しい医療環境の整備 	<p>構想を実現するための整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 放射線科 放射線腫瘍科 腫瘍内科 腫瘍センター 腫瘍内科関係する診療科合同スペース ペインクリニック 緩和ケア 女性専用フロア(産科婦人科・バースセンター) 低侵襲手術室 病理部 外来化学療法室 光学診療部 放射線治療装置 内科、外科 眼科 その他他記以外の外来 看護専門外来 女性の聴取室 皮膚科 がん研究支援センター <p>低侵襲総合診療棟の整備</p> <p>規模:延べ面積約9,000㎡ 現附属病院保有面積の約11.5%増</p> <p>既存本院施設の整備</p> <p>規模:改修面積約4,000㎡ 現附属病院保有面積の約5.1%</p>
	<p>診療面</p> <ul style="list-style-type: none"> 放射線腫瘍医、医学物理士、腫瘍内科医の不足 リニアックの台数不足 麻酔医の不足 外来スペースの狭隘・不足 低侵襲治療の需要に対する病院機能の不足 周産期医療の需要に対する病院機能の不足 	<p>基本理念に基づく問題整理</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域診療拠点病院としての診療ネットワークと患者診療・支援体制の構築 高度医療推進拠点病院としての体制構築と機能強化 働きやすい機能的な病院を目指した体制改革 安全な医療推進のための体制の充実 戦略的な広報展開 	<p>解決策</p> <ul style="list-style-type: none"> 適切な医療スタッフの確保 老朽設備の更新 先端機器の導入 手術室の増室と運用改善 外来スペースの拡充 低侵襲治療、周産期医療のための病院機能整備 	<p>解決策を実現するための構想</p> <ul style="list-style-type: none"> がんプロフェッショナルプログラム事業への参加 県との地域医療循環型人材育成プログラム 総合医療教育体制の確立 質の高い医療人養成 良好な教育環境スペースの整備 	<p>構想を実現するための整備</p> <ul style="list-style-type: none"> がん診療拠点病院としてのがん診療機能の強化 低侵襲治療、周産期医療の需要に対する病院機能の不足 周産期医療の需要に対する病院機能の不足
	<p>教育面</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生・研修医の臨床研修のための良好な教育環境スペースの不足 	<p>基本理念に基づく問題整理</p> <ul style="list-style-type: none"> 幅広い視野をもつ医療人の育成による医療の質の向上をめざし、社会に貢献 総合医療教育体制を整備 医療人と必要とされる基本的素養の教育 	<p>解決策</p> <ul style="list-style-type: none"> がんプロフェッショナルプログラム事業への参加 県との地域医療循環型人材育成プログラム 総合医療教育体制の確立 質の高い医療人養成 良好な教育環境スペースの整備 	<p>解決策を実現するための構想</p> <ul style="list-style-type: none"> がんプロフェッショナルプログラム事業への参加 県との地域医療循環型人材育成プログラム 総合医療教育体制の確立 質の高い医療人養成 良好な教育環境スペースの整備 	<p>構想を実現するための整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生・研修医の臨床研修のための良好な教育環境スペースの不足
	<p>研究面</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床医における診療業務の増加ならびに複雑化に対応できる高度臨床研究体制の整備不足 若手医師の臨床志向 	<p>基本理念に基づく問題整理</p> <ul style="list-style-type: none"> 幅広い視野をもつ医療人の育成による医療の質の向上をめざし、社会に貢献 総合医療教育体制を整備 医療人と必要とされる基本的素養の教育 	<p>解決策</p> <ul style="list-style-type: none"> がんプロフェッショナルプログラム事業への参加 県との地域医療循環型人材育成プログラム 総合医療教育体制の確立 質の高い医療人養成 良好な教育環境スペースの整備 	<p>解決策を実現するための構想</p> <ul style="list-style-type: none"> がんプロフェッショナルプログラム事業への参加 県との地域医療循環型人材育成プログラム 総合医療教育体制の確立 質の高い医療人養成 良好な教育環境スペースの整備 	<p>構想を実現するための整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床医における診療業務の増加ならびに複雑化に対応できる高度臨床研究体制の整備不足 若手医師の臨床志向

2012 KOBE Univ. Hospital 神戸大学医学部附属病院低侵襲総合診療棟基本計画

病院全体構成図(概要)

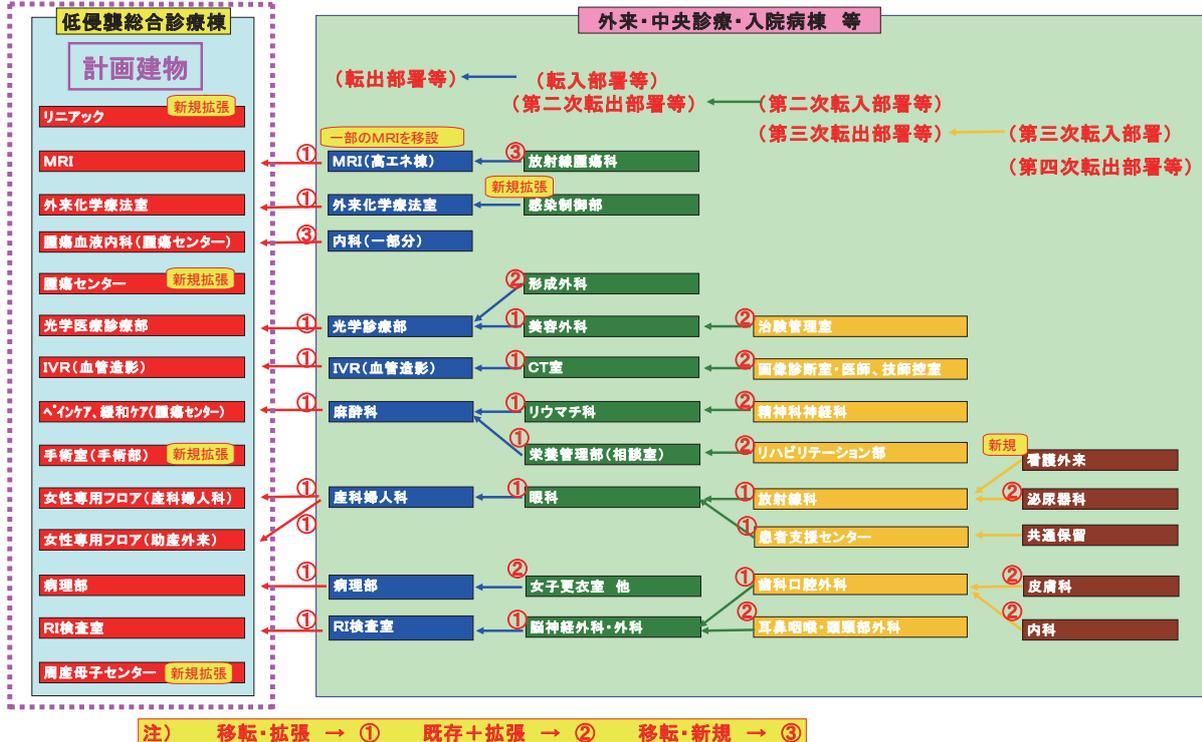
◆ 構成図(概要)



2012 KOBE Univ. Hospital 神戸大学医学部附属病院低侵襲総合診療棟基本計画

移行計画

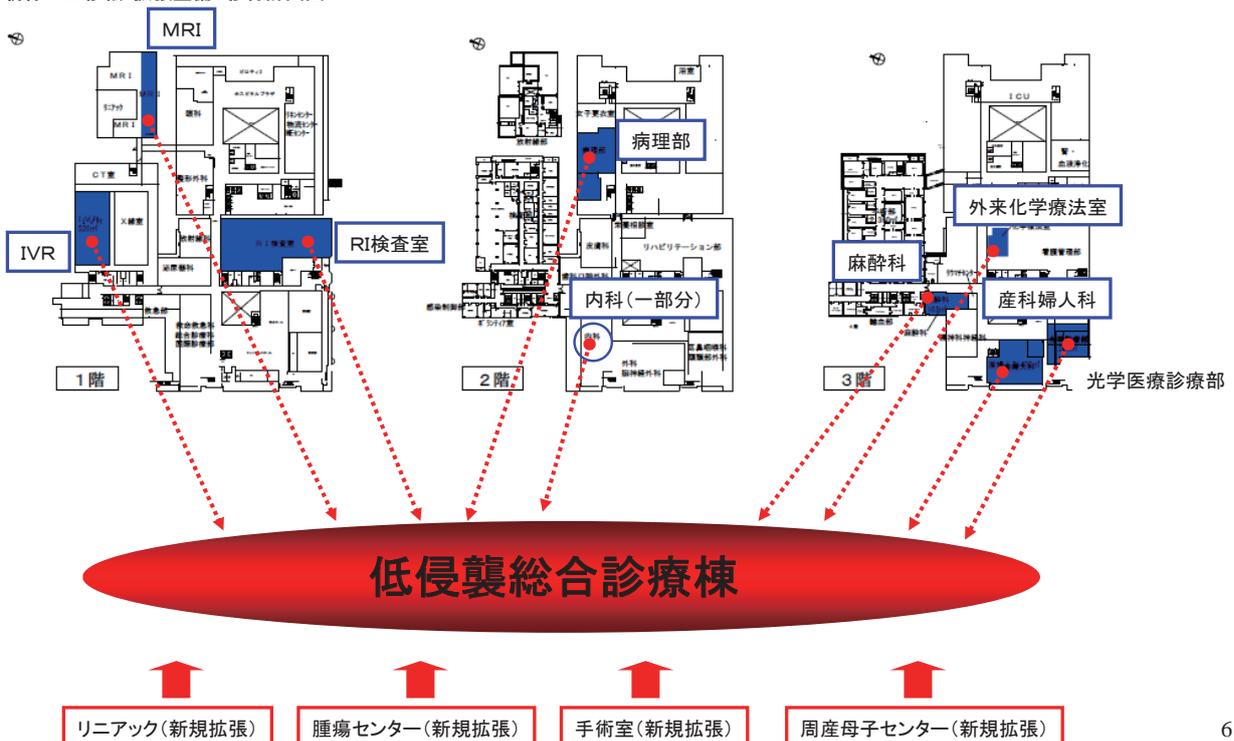
◆ 低侵襲総合診療棟増築及び既存建物移行整備計画



5

移行計画図

◆ 新棟への移転・拡張整備 移行計画図



6

建物・病棟内部イメージ



2012 KOBE Univ. Hospital

神戸大学医学部附属病院低侵襲総合診療棟基本計画



神緑会館の工事と陳列棚の全面入れ替え

神緑会館内の奥に医学科保健室があります。その機能としてカウンセリング室の設置が必要となり、工事が行われました。寄付者銅板横の廊下とロッカー室が光庭に面したカウセリング室になりました。すぐ横に附属病院がありますが、保健室の機能は学生や職員のための診察や相談と薬の処方のために必要な処置です。ご理解をお願いします。

陳列棚は、保健室（旧資料室）にあったものを神緑会館入り口から多目的室までの廊下に前出して、内容をほぼ全面入れ替えしました。なお、保管スペース確保として、神緑会事務局隣室（研修室1）を会議室に整備し、片側壁面ロッカーに神緑会資料を保管・施錠します。

陳列棚区分（入り口から順に）

- 1 明治の神戸病院・医学校と神田学校長・病院長石碑など
- 2 竹田正次名誉教授（内科学）手紙類、医学部50年史、楠・荒田町遺跡
- 3 ノーベル賞受賞者・候補者資料（西塚泰美元学長・教授、山中伸弥京大教授）
- 4 卒業記念アルバム（25年卒、34年卒）、医学部本館竣工記念アルバム（昭和27年）、神戸大学100周年記念史、神戸医科大学史
- 5 6 寮歌青春コンサート関係旗や関連資料
実行委員会（横山博朗他）から寮歌祭終了に伴って神緑会に寄付

陳列棚 1

内容：特に、明治10年ハイデン講義筆記書

- 和とじ冊子 A. 梅毒講説 32枚
B. 外科学総論 55枚

A. 梅毒講説

楨は梅と同じです。オランダ医ハイデン（瓶電：当て字）が教述するところを日本人の小石氏が訳し、それを第三者が筆記してまとめたもの。筆記は整然としているのでこれが講義中に作られたものか、改めて清書したのかは定かでない。略語は多い。

オランダ医ハイデンについては、知名度低く人名辞典等載ってません。多分、当時、多く来日していた、いわゆるお抱え外国人の一人と思われます（新潟県から着任した）。

訳者の小石二郎（大二郎は間違い）については、

- ①曾祖父 小石 元俊（1743～1808年）
- ②祖父 小石 元瑞（1784～1849年）
- ③父 小石 中蔵（1817～1894年）
- ④本人が（1850～1908年）

小石家は京都に拠点を有し、究理堂と称する塾を運営し弟子を育てておりました。小石二郎は、明治4年、21歳の時に長崎医学校に学ぶ。明治6年に新潟病院に移る。明治10年に公立神戸病院で附属医学所教員兼務。明治14年に岐阜医学校に転じ、その後京都に戻り医業を継ぐ。

B. 外科学 第一療病学、第二手術、第三繃帯学（正しくは包帯）、第四薬治法、第五病理学

この冊子の価値ですが、出版物ではないので医学古書としての評価が成されにくい。ただ、19世紀後半の医学教育がどのレベルかを示す良い資料と言える。なお、この評価は、滋賀医科大学名誉教授友吉唯夫先生によるもので、神戸大学泌尿器科50周年記念行事でご講演の為に来神時に藤澤正人教授の仲介で実現しました。

なお、本書は、神埼郡香寺町広瀬 在住の藤尾恭三氏が生前に「非常に古い書物がある」と神緑会に連絡をいただき、同氏の没後、同夫人・子息と神戸大学文学部、河島真准教授の話し合いで神戸大学図書館に寄託の形で実現しました。神緑会は許可を得て複製本（現物）を保管する事になりました。



陳列ケース1と神戸病院の壁掛け



陳列ケース2

同時提供・「医学校入学願い」明治11年 藤尾通吉
 ・神戸病院医員辞令（大正5年）
 ・神戸病院医師と看護師の記念写真

**明治15年から21年の神戸医学校関係資料
 学校長神田知二郎の記念碑と当時の学生学籍簿**

医学部厚生棟の東隣の廣巖寺（楠寺、楠正成菩提寺）内にあった神田氏没後10周年時の石碑は、土台が石積みと弱く、没後50周年で土台の再構築と記念行事を祥福寺で挙行了。神田氏の後輩と同じく東京、東校【現東京大学前身】卒の長澤先生（県庁東で小児科開業）が50周年記念事業の世話人。

同石碑は50周年記念事業で神緑会館入り口に廣巖寺からの要望により移設した。

**神田知二郎先生の長沢先生へのハガキ
 神戸医学校の学生学籍簿**

神田学校長にはお子さんが無く、兄のお子様を養女とした。その子孫（滋賀県在住）から提供を受けた。保存状態の良かった約150名分が神戸大学100周年記念館が保管している。明治21年で以後の医師育成は国費で行うことになり(廃校)、学校長が保管していたのではないかと。墓参りに来られて会館内移設を知り、神緑会への橋渡しが実現しました。

池田宇之介氏講義筆記ノート

多可郡多可町出身、地方議員や医師会副会長を勤めた。

陳列棚 2

竹田名誉教授自筆手紙など

阪神・淡路大震災にて圧死された。

神戸市文書館資料

楠・荒田町遺跡：兵庫区荒田町には、^{こん}権中納言平

頼盛の邸宅がありました。神戸大学附属病院構内には、同遺跡の中心部を占めると考えられ、1981年以来、断続的に発掘調査が行われました。2003年、その西北の一角に、櫓跡と推定される特異な掘り立て柱建物跡、およびその南に東西方向39メートルにわたって平行する2本の壕遺構が出土しています。出土した京都系の土師器皿の年代観から、遺構は福原遷都の時代のものと考えられます。壕は、防御用以外に区画溝、あるいは館^{やかた}をとりまく壕が重なっているだけなどの意見が出されています。

陳列棚 3 ノーベル賞受賞者・候補者

西塚泰美神戸大学元学長・名誉教授

(42年卒山村博平氏より提供)

・ラスカー賞受賞講演 ・天皇陛下ご進講

山中伸弥京都大学iPS細胞研究所長

(神戸大学昭和62年卒)

- ・ノーベル賞受賞を伝える神戸新聞
- ・平成12年度神緑会研究助成授与式での待機中の山中先生、菱田理事長から目録の受領、研究内容を説明する山中先生
- ・神緑会ニュースレターノーベル賞受賞特集号掲載の山中先生メッセージ
- ・神緑会総会（平成25年1月19日）への欠席の回答書

陳列棚 4 医学部本館竣工記念アルバム、

学生卒業アルバム（24、37年卒）

神戸大学100周年記念誌



陳列ケース3

平成24年度 海外派遣報告書

東亜大学校（韓国、釜山）実習報告

2012年4月2日～13日

金 本 義 明（神戸大学医学部医学科6年）

はじめに

私は、日本以外の医療を体験してみたい、自分の英語力の向上を目指したい、異文化交流をしてみたい、そして韓国の文化に興味があったという理由からこの海外派遣プログラムに参加させて頂きました。

病院実習ではFamily Medicine (FM) を見学させて頂きました。プライマリーケアに興味があり日本と同じアジアの韓国でどのように家庭医学が行われているかを見たかったからです。

韓国の病院を実際に見学させて頂いて率直な印象は日本の雰囲気と非常に似通っていることが分かりました。先生も患者さんも韓国語しか話さないしそれは日本と同様です。また生徒の話だとFMはあまり人気のない科だと聞きました。理由としてはあまり儲からないということだそうです。人気のある科は耳鼻科や皮膚科、形成外科でありお金がとて

実習スケジュール

月曜日	7:30-8:15	朝のカンファレンス
	8:30	回診
	9:00-11:00	外来見学
	13:00-16:00	医学生とOSCE実習
火曜日	7:30-8:15	朝のカンファレンス
	8:30	回診
	9:00-12:00	ヘルスケアセンターで検査の見学
水曜日	7:30-8:15	朝のカンファレンス
	8:30	回診
	9:00-12:00	ヘルスケアセンターで検査の見学
木曜日	7:30-8:15	朝のカンファレンス
	8:30	回診
	9:00-12:00	ヘルスケアセンターで検査の見学
金曜日	7:30-8:15	朝のカンファレンス（第2週にケースプレゼンを行いました）
	8:30	回診
	9:00-12:00	ヘルスケアセンターで検査の見学
	14:00-16:00	講義



東亜大学校付属病院（左の建物）



東亜大学校医学部のキャンパス

も大事だとも言っていました。FMの外来では先生が非常に丁寧に患者さんと接しており良い信頼関係が築けていると感じました。私はそれにとっても感銘を受け、見習わなければならないと感じました。

週末には生徒達や、神戸大学との橋渡しをして下さっているチェ教授の御家族に釜山を案内して頂きました。皆様のお陰で、私は韓国の食べ物や文化を満喫することが出来ました。

滞在中は東亜大学校の寮を利用させて頂きました。病院からは徒歩で30分と少し離れていますが、この春に新設されたもので快適な環境であり、何よりも安かったことは私のような学生にとって非常に助かる点でした。寮のお世話をしている東亜大学校のスタッフの方々にも感謝したいと思います。

まとめ

2週間の実習は本当にあっという間で、とても充実したものとなりました。今回の実習で一番強く心に残ったことは、東亜大学校の生徒が神戸から来た日本人の私にとっても親切にしてくれたことです。というのもその生徒の中には5年生の時に神戸に実習に来たことのある人もいてその時にとっても親切な対応を受けたというのです。人の繋がりというの

は素晴らしいものだと思改めて実感致しました。1年も前に韓国の生徒が神戸で受けた親切を巡り巡って自分が韓国の実習に行った際にそのお返しとして受けるとは思ってもみませんでした。私も海外に慣れておらずまた英語もあまり自信がなく心細い思いをしていたためその親切はととても身にしみました。私も困っている人がいたら親切にしなければならぬと、改めて考えさせられる体験でした。

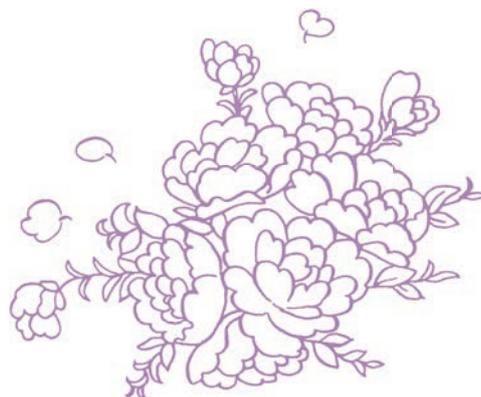
また話は変わりますが、韓国の授業では英語の教科書を使うこともあると知りました。生徒が自習している所を見せてもらいましたが必死に英語の教科書を読んでいました。日本では日本語の教科書が多くあり勉強しやすい環境にあると思いますが、世界の医療を学ぶ為には今後は積極的に医学英語に触れ、世界中の人と対話をしながらもっと視野の広い医師を目指したいと思いました。

最後になりましたが海外実習の機会を与えて下さり、そのお陰でこのような貴重な体験をさせて頂き、多くの支援をして下さった先生がたや神緑会の皆様には心からお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。



平成24年物故会員

平成23年 7月22日 (39)	内藤 昇三	★6月7日 (34)	白井 哲彦
9月4日 (専24)	森下 喬之	6月17日 (専25)	進藤 敏
9月28日 (37)	恩賀 弘道	7月25日 (専25)	小西 明和
12月1日 (専25)	片山 博史	8月3日 (28)	別所 四郎
平成24年 1月3日 (37)	栗原 章	8月3日 (42)	森 喜紀
1月6日 (32)	牛尾 博信	8月17日 (31)	窪田幸治郎
1月20日 (28)	菅野 元雄	8月23日 (28)	池野 昇
1月26日 (43)	川村 諒	9月11日 (32)	生駒 貞嗣
2月12日 (47)	石井 昇	9月25日 (34)	佐々木泰也
2月13日 (35)	山本 節	10月2日 (29)	菅澤 龍二
2月18日 (61)	松場 洋	10月2日 (63)	菅原 正
2月20日 (37)	上田 月夫	10月14日 (27)	三好 俊之
2月22日 (27)	井上 利之	10月25日 (43)	山下 順平
3月18日 (29)	増田 克久	10月17日 (34)	伊東幸三郎
4月5日 (36)	佐々木宗一郎	10月27日 (専26)	下間 仲治
4月7日 (専24)	柏木英太郎	10月31日 (03)	川村 順子
4月18日 (専25)	恵木 永	11月5日 (45)	駒場啓太郎
4月21日 (36)	田原 和夫	12月2日 (29)	口分田 勝
5月6日 (27)	大久保達也	★12月15日 (32)	佐古 一穂
5月26日 (33)	野田三千磨		★神緑会への通知の日



佐々木宗一郎先生を偲ぶ



鶴 圭一郎（昭和36年卒）

昨年（2012年）、神戸市北区の桜の開花が例年より遅く、3分咲きとなった4月5日の正午過ぎ同級生の三浦順郎済生会兵庫県病院名誉院長から、携帯電話に連絡が入った。

入院中の同級生佐々木宗一郎君が1晩昏睡の後、息を引き取ったと云う。

彼は私と同級で1955年（昭和30年）4月桜満開の下、当時篠山にあった兵庫農科大学に（医学部進学制度の改変により）新設されたばかりの神戸医科大学医学進学課程の入学式で知りあった。

40名の同級生のうち約半数が旧陸軍篠山連隊の兵隊さん達が暮らした兵舎跡を粗末な薄いベニヤ板で間仕切りした寮で生活した。冬は冷房、夏は暖房入りの過酷な環境であったが、そこでの生活は楽しく皆すぐ仲良くなり、親友となる。彼と私は同室で、約2年間すごす。

1961年（昭和36年）卒業後も同じ神戸掖済会病院で同級の故圓尾宗司兵庫医大整形外科名誉教授、岩端大司君や彼と私の4人がインターン生活を送る。

1962年4月皮膚泌尿器科学教室に彼と神島茂君（神戸大皮膚科助教授のとき1979年早世）の2人が大学院生、前田一郎君と私が副手として入局した。

同年8月昇任された佐野榮春教授の下で私達4人は分離独立した神戸医科大学皮膚科学教室の第1期生となった。従って昨年8月で満50年となる。後に同級の谷口登代子さんも入局している。

彼は1966年大学院修了後、デンマークのコペンハーゲン大学皮膚科に留学。結合組織の権威G. Asboe-Hansen教授のもとで研究。成果を挙げ1967年帰国、1969年神戸大学皮膚科学教室の専任講師に就任し、教室の発展に尽力した。

1973年新設された兵庫医科大学の皮膚科学教室に元阪大教授藤波得二先生から助教授として招かれ、同教室の基礎創りに貢献した。

1977年、神戸三宮で開業し、2003年閉院した。

彼は開業後も神戸皮膚科臨床研究会を主宰。毎年数回の症例検討会を開き、また皮膚科の各分野のエキスパートを招いて講演会も開催している。

彼は米国皮膚科アカデミー終身会員と欧州皮膚科アカデミー会員でもあり、度々渡米、渡欧し学会に参加。

最先端の皮膚科学の知見を吸収、私達にも教えてくれた。

2003年体調不良のため閉院したが、閉院後も自伝や自身の経験した症例を2巻の図譜として出版している。

彼は自分自身が患者としてガンの粒子線治療を受けた体験と兵庫県粒子医療センターの嘱託医として経験した症例を「粒子線治療と皮膚障害」と題し皮膚病診療の2009年12月号に発表した。

1980年には兵庫県皮膚泌尿器科合同医会から皮膚科医会を分離するため彼は前田一郎君と共に担当幹事として大活躍。1985年から、兵庫県皮膚科医会の第2代森秋津会長のもと10年間副会長を、1995年から1999年まで会長を務め、現有会員数360人以上の日本有数の医会に発展する礎となる。

彼は医学生の頃から英語が堪能。英語弁論大会で入賞し、西日本医科学生体育大会の100m競争で2位。ラグビー部にも所属、文武両道に優れ、筋肉質で背も高く映画俳優にもなれそうなマスクをしていた。夫人も上品な美しい方で、2人の結婚写真が三宮の写真館に長い間飾られていた程である。

昨年3月6日、同級生の宮田昌明君が長い間佐々木君の主治医として診察していたが彼の病状が急に悪化したので往診に行き、済生会病院に緊急入院すると連絡を受けた。

ところが1週間後、彼の病室に私が見舞った時、彼は具合が良いと云って離床しており、私にお茶のサービスまでしてくれた。彼は学生時代の思い出話をしてくれ、1959年9月の伊勢湾台風のため、名古屋大学主催の西日本医科学生体育大会が前夜祭のみ開催され、競技会は全て中止となり、名古屋近くの名所を観光しようとふたりで計画。飛騨高山に1泊、翌日バスで平湯温泉に向かった。バスはがら空きで偶然乗り合わせた旅館のお女将さんのところに泊まることになり、お客は私達だけで、大歓待を受けた。そのとき温泉熱を利用して養殖した白身の熱帯魚の刺身がチヌのように美味で、熱燗の2級酒を飲みすぎ酔ってしまったこと等を話し、退院したら是非、平湯温泉に行こうと約束。握手して別れた。

才能豊かで友情に厚く、好奇心旺盛で亡くなる1年前の2011年2月には1人で南極に旅し、9月には奥様と病を押して北極旅行を敢行。現地から、えはがきで便りをくれた。57年間付き合ってくれた貴重な友を亡くし誠に残念でならない。



一般社団法人神緑会 入会金並びに年会費納入制度に関する説明 —混乱の背景の解説や経過確認を中心に—

1. 神緑会の起源と会費制

同窓会神緑会は、昭和28年に結成されましたが、卒業生が若かったこともあり、当初、医科大学学長（遠藤中節）が会長を併任していました。その後、昭和44年に昭和26年卒の国屋輝道氏が最初の同窓会会長に就任しました。

2. 社団法人神緑会認可への取り組みと年会費問題等の発生

40周年記念事業として、記念式典の挙行と社団法人格の取得が悲願となりました（神戸大では、経済・経営・法律の3学部同窓会、凌霜会と工学部の工学振興会（KTC）が法人格取得）。活動開始の十年後の昭和59年に社団法人神緑会が文部省により認可されました。ただ、同窓会ルール「卒業時に3万円を終身会費として納入すれば生涯会費徴収がない」としてきた同窓会システムと矛盾し、混乱する事になりました。

昭和59年2月に「同窓会神緑会」から「社団法人神緑会」に移行したことで制定された当時の定款並びに施行細則の規定により、入会金30,000円、年会費5,000円を納入することとなりました。同窓会神緑会発足以来昭和58年までに終身会費を納入していた会員は、社団法人に移行した時点で入会金を免除し、自動的に社団法人神緑会の会員になることと決定しました。併せて、当時終身会費を納入せず毎年会費（5,000円）を納入し、その額が30,000円超に達していた会員も終身会費を納入した会員と認めることを決定しました。

以上の内容は、以下の規則で明文化されていません。

*会員規則第10条第1項：かつて法人格を有しない同窓会神緑会に終身会費を納入した者は

本会の入会金を納入したものと見なす。

*会員規則第10条第3項：かつて法人格を有しない同窓会神緑会の終身会費を納入しないで年会費を納入し、その額が3万円以上に達した者は、本会の入会金を納入したものと見なし、3万円を超えた分は年会費にあてる。

3. 社団法人認可に向けた募金活動に伴う年会費の免除について

上述の同窓会神緑会の40周年記念事業の一つとして同窓会の法人化を掲げ、その目的を遂行するために、基本財産が必要でした。昭和49年当時から一口100,000円の募金活動を行いました。当時の会員の並々ならぬ努力の結果、約6千万の募金が集まり、これを基本財産として社団法人設立申請が認可されました。この募金活動に協力された会員に対し、その功績に報いるために、昭和59年1月開催の同窓会神緑会臨時総会において、社団法人神緑会の年会費を免除することを決定しました。

*会員規則第10条第2項：かつて法人格を有しない同窓会神緑会の40周年記念事業に10万円以上寄付した者は、この法人の年会費を免除する。ただし、その後、本項該当者に対して諸般の事情により、年会費の納付依頼を行うことができるものとし、本項該当者は、任意でこれに応ずることができる。

平成23年4月の一般社団法人への移行に伴い施行された会員規則に基づき、平成23年度より、年会費免除会員の皆様へは運営協力金として年会費相当額を寄附として任意でご協力いただく事と変更しました。

変更の理由の主な点は、昭和49年から59年にかけてのご寄付であり、年会費免除の期間が長くな

り、その後の卒業の会員とのズレなど、理解がむずかしい面のある事と以下の2回の記念行事寄付では免除がなされなかった事等です。

※銘板への氏名記入により謝意を表明：神戸大学医学部創立50周年記念事業募金（神緑会館建設）や創立60周年記念事業募金（共同研究館改修と寄付建物建設等）に協力された会員は年会費免除の対象となっておりません。50周年記念事業では、神緑会館多目的ホール前の廊下の突き当たり、60周年記念事業では、管理棟入り口の右壁面に設置されています。いずれも銅板です。

なお、病気等の理由による年会費の減免措置は会員規則に規定しています。

*会員規則第8条： 病気、災害その他相当の事由がある会員から申し出があったときは、理事会の承認を得て、年会費の減額又は免除をすることができる。

4. 年会費の前納制度について (約400名が利用中)

会費納入の利便性を図るため、昭和63年の第2回理事会において、年会費の一括納入方法について審議の結果、昭和63年8月から、20年分の年会費100,000円を一括して前納し、毎年5,000円ずつ神緑会事務局が振り替える方法が採択されました。なお、平成8年度の第6回理事会において、会員が死亡した場合の残金は寄附金収入として取り扱う事にしましたが、運用上は、ご遺族にご確認の上と変更しました。

5. お詫びとご協力をお願い

同窓会神緑会を社団法人化する事は、当時の神戸大学医学部卒業生としては是非とも達成したい念願でした。神戸大学の起点は神戸高等商業学校（明治35年）となっており、平成24年5月に110周年記念式典が挙行されました。六甲台3学部の、同窓会、社団法人凌霜会が神戸大学の中心で兵庫県立医科大学から国立移管された医学部は、追いつき追い越せの機運だったと思います。同窓会の社団法人化は、必要な措置でした。

一方、終身会費の言葉は、一度払えばその後の負担の無い事です。制度変更に際してその時々神緑会執行部は、各支部やクラス会代表を通して、理解を求めて参りました。ただ、卒業後、クラス会の開催に至る時期や関心は温度差があります。会員への理解が十分に浸透してなかった可能性はあったと思います。また、入会者の会費の未払い問題とは別に未入会者の問題があります。神緑会の仕組みなどを十分に説明しないまま、機械的な入会請求が毎年2回繰り返され、反発を招いてきたかもしれません。何らかのわだかまりや行き違いのあった可能性も考えられると思います。理事会として反省すると同時に初心に立ち返って運営にあたる覚悟です。これらの経緯をご理解の上、先生方におかれましては入会や会費支払いにご協力いただけますようお願いいたします。なお、その他、疑問の点はいつでも神緑会事務局や役員にお問い合わせ下さい。

■ iPS細胞研究基金への寄附のお申し込み

CiRAでは、研究者および研究支援者の安定的雇用や知的財産の取得・維持のために、寄附を募っております。ご寄附をいただく場合は、申込用紙やウェブフォームに「神緑会」とご記入くださいますようお願い申し上げます。申込方法については下記のサイトをご覧ください。よろしく申し上げます。神緑会として昨年3月より寄附を実施しており、多くの成果をあげています。引き続きよろしく申し上げます。

神緑会会長 前田 盛

<http://www.cira.kyoto-u.ac.jp/j/about/fund.html>

キャリアカフェ2012 子育てドクターランチミーティング 第1回 “ママドクカフェ” を開催して

D&Nブラッシュアップセンター センター長 錦 織 千佳子

去る平成25年1月29日（火）の12時～13時、昼休みの時間を利用して、D&N plusブラッシュアップセンターと神戸大学男女共同参画推進室の主催で、第1回“ママドクカフェ”が開催されました。講師の先生お二人をお招きし、参加者：24名（女性医師10、男性医師1、育休中医師3、初期研修医3、医学部生2、看護師3、事務職員2）で、ランチを食べながらのあつという間の1時間でした。

女性医師の復職支援のキャリアカフェは以前にも何度か行なった事は有るのですが、開催を土曜日にする、人の集まりが悪く、学生さんの参加もすくないこと、“現に子育て真最中の先輩の先生たちがどのように育児と仕事を切り盛りしながらやっているのかを聞きたい”という声をしばしば聞くので、そのような会を企画出来れば、と考えていたところ、それに応える形で、丁度ぴったりの“若手のばりばり女性医師”がその役を買って出て下さり、こうして開催の運びとなりました。

スピーチ其の1は「私って結婚できるの?」と題して、三木市民病院・呼吸器内科医金城和美先生がご自分を含め何人かの方のキャリアパスを示されながら、その場その場に応じて、自分に合った働き方を模索して手に入れた充実した医者人生と母親業の話をして下さいました。

スピーチ其の2は、パルモア病院・麻酔科魚川礼

子先生が「保育園、病児保育、シッターさんって?」と題して、両親の助けを得られない状況でなんとか夫婦で、子どもの急病に際してどう乗り切るか。子どもが急に熱を出したとき“プロとして働くということは、職場からプロとしての仕事を求められると思うので、やはり休むことはできない”ではどうすればいいのか?その対策として、“病児保育に預ける”というわけで、今回は病児保育にポイントを絞って経験を交えてわかりやすく、保護者の立場でお話し下さいました。お二人のパワフルな楽しい話術に引き込まれました。

“具体的にキャリアパスが見えやすくてわかりやすかった”という声が多く寄せられました。交流会でも“学童保育の事”、“子どもが小学生や中学生の時期にはどうしているか知りたい”、育メンの話も聞きたい”などなど、興味と質問は尽きないようでした。

国家試験前の時期に医学部6年生の女子学生が出席してくれていたのも嬉しく、平日の午後に開催した意義が有りました。

次回は6月頃を計画しています。次回も皆さんの参加をお待ちしています。D&N plusブラッシュアップセンター brushup@med.kobe-u.ac.jpへのご意見ご要望がございましたら、どしどしお知らせ下さい。



「ニコニコ会」の発足と その第1回クラス会開催

ニコニコ会とは何ですか？毎日、ニコニコ笑顔で過ごせれば、テロや日本中国のいがみ合いもない平和な世界になるのに。あるいは、モンスターペイシエントに毎日悩まされ、こちらの努力も知らないで文句ばかり言っている患者さんを何とかしてほしい。

実は、答えは、神緑会が新たにスタートしつつある活動、卒業後二年目と五年目のクラスに同窓会を開いてもらう活動の二年目と五年目の略の25五会です。この活動は、最近進めているクラス代表2名制とも相まって、おそらく、決め手に欠けた若手医師の神緑会活動への参加推進対策の重要な柱になりそうです。何となれば、社団法人神緑会の再建策に取り組んで来た中で、「笛吹けど……踊らず」の格言通りに虚しく4年が過ぎようとしているからです。平成卒業の若手医師対策を常に発信してきて、第一弾の活動は学内活動の実施でも有効な成果は出せなかった。平成卒業学年では、クラス会開催は平成元年卒、4年卒、8年卒と昨年10月のホームカミングデイ当日に開催された平成9年卒に限られていました。つまり、神緑会の浸透は、昭和年

代卒業者の活動に終始していました。

ちなみに、平成8年卒が一昨年クラス会を開いた際のクラス代表の情報では、タイミング良く名簿の更新の時期だったので本人了解を前提に名簿の更新を試みたところ、かなり多くの会員の住所変更（勤務先や自宅住所）が判明しました。ホームカミングデイの対象学年は、全学レベルでは昭和卒に限られていたのを無理に神緑会だけは、平成卒を対象学年に組み込んできました。第7回ですから、7×2の14学年が対象となっているはずなのに、クラス会の開催は4学年に留まっています。

なお、今回開催では、無理に頼んで開催してもらったので、恐縮の体で会に臨んだところ「良い機会になった」とむしろ、感謝されました。今後も、3～5年に一度のクラス会開催をお願いしました。今後のフォローは、「ニコニコ通信」を発行し、卒業後10年から15年までの会員に送付もしくは関心を持ってもらうことを考えています。活動の主力は、神緑会から2名、関連病院から2名、神戸大学から2名の委員会制で運用します。ご協力及びご支援をお願いします。



編集後記

医学部卒前教育では、近年ますます広範囲かつ掘り下げた内容が求められています。自然科学である基礎・臨床医学の分野だけではなく、医療倫理や医療安全、受療者への配慮、チーム医療、地域医療などいわば社会科学としての医療の基本的事項を入学直後からさまざまな形で学んでもらっています。そして、医学生は単に知識を吸収するだけではなく、医学的思考や医療技術、コミュニケーションの能力を磨かねばなりません。そのため、卒前の臨床実習をさらに充実し、初期臨床研修にも連結させて医師を養成する総合的医学教育のコンセプトが重視されています。このような教育体制の整備には、それを担当する学内・学外の指導者づくりも同時に進める必要があります。しかし現状では、教育に熱意がある医師が、使命感に基いた献身的努力によって支えている面が大きく、教育担当者の数は十分とは言えません。医学教育を担当する人材への適正な処遇についての論議を求めたいところです。

編集委員：

梶田明義	昭和34年卒
久野克也	昭和48年卒
◎山崎峰夫	昭和56年卒
三浦靖史	平成元年卒
尾藤利憲	平成3年卒
吉田 優	平成4年卒
小林和幸	平成9年卒

◎は編集委員長

●編集委員募集中●